

フルサービスの給油取扱所とセルフサービスの給油取扱所の事故の比較について

前回資料 4 - 3 - 9 にあるとおり、フルサービススタンドとセルフサービススタンドを比較すると、セルフサービススタンドの火災発生率が高くなっているが、給油口での小規模な火災が多く発生している。

CNG自動車とガソリン自動車の停車スペースの共有化で最も懸念されることは、ガソリンが大量漏えいし、CNG自動車の下に入り込み火災と繋がる事案であることから、漏えい事故について分析を行った。

平成 23 年度から平成 25 年度の給油取扱所における、固定給油設備又は固定注油設備に係る漏えい事故の発生割合及び平均漏えい量は下の表のとおりとなる。

	フルサービススタンド	セルフサービススタンド
給油取扱所 1 万施設あたりの漏えい事故発生割合	5. 8	10. 1
平均漏えい量/L	41. 4	2. 7

セルフサービススタンドでとられている安全対策設備により、セルフサービススタンドの方が、漏えい量が抑えられている。このことから懸念されるガソリンの漏えいにより、CNG自動車の下で発生する火災を避けるためにはこれらの安全対策が有効であることを示している。

CNG自動車とガソリン自動車の給油の際の停車スペースの共用化については、セルフサービススタンドと同様の漏えい対策を局限化するための安全対策設備を設置することが重要であり、セルフサービス、フルサービスを区別せず取り扱って問題がないと考えられる。